

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-267054

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)11月27日

A 61 B 19/00

C

7729-4C

審査請求 未請求 請求項の敗 7 (全 11 頁)

⑮ 発明の名称 定位的脳手術支援装置

⑯ 特 願 平2-67928

⑰ 出 願 平2(1990)3月16日

特許法第30条第1項適用 平成元年9月25日開催の「第28回日本定位脳手術研究会」において文書をもって発表

⑱ 発 明 者	加 藤	天 美	大阪府茨木市上野町9-20
⑱ 発 明 者	吉 峰	俊 樹	兵庫県芦屋市竹園町3-7
⑱ 発 明 者	早 川	徹	兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目2番地
⑲ 出 願 人	加 藤	天 美	大阪府茨木市上野町9-20
⑲ 出 願 人	吉 峰	俊 樹	兵庫県芦屋市竹園町3-7
⑲ 出 願 人	早 川	徹	兵庫県神戸市東灘区御影山手1丁目2番地
⑳ 代 理 人	弁理士 柳野 隆生		

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

定位的脳手術支援装置

## 2. 特許請求の範囲

1) 頭皮に複数のマーカーを貼付した頭部の複数枚の断層画像を入力する画像読取手段と、

前記画像読取手段の画像データを格納する記憶手段と、

手術中に固定した患者の頭部に対して定位器に固定し、相互に識別可能な複数の無線周波電磁場を放射する磁場ソースと、

脳手術用のプローブの近所に固定し、前記磁場ソースから放射された複数の電磁場を分離検知する磁場センサーと、

前記磁場ソースに電磁場を発生させるソース信号を供給するとともに、前記磁場センサーで受信した信号を解析して、磁場ソースを識別した磁場センサーの位置座標及び方向を算出する3次元デジタイザーと、

複数の断層画像を同時に表示する表示手段と、

前記定位手段の画像データを処理して複数の断層画像を前記表示手段に再表示するとともに、断層画像上の前記マーカーの位置と前記プローブ先端の位置座標より前記プローブ先端の位置と方向を断層画像上に対応づける関係を演算し、手術中のプローブ先端の位置と方向を断層画像上に表示する信号を発生する演算手段と、

前記演算手段に初期データ及び制御信号を入力する入力手段と、

よりなる定位的脳手術支援装置。

2) 前記プローブの先端位置が表示手段に表示された複数の断層画像の何れにも対応しない場合に、対応する断層画像及びそれに連続する他の断層画像を表示手段に表示させるスクロール信号を前記演算手段より発生してなる特許請求の範囲第1項記載の定位的脳手術支援装置。

3) 前記表示手段の同一画面に重ねる6枚の断層画像を同時に表示してなる特許請求の範囲第1項又は第2項記載の定位的脳手術支援装置。

4) 前記磁場センサーをプローブに着脱自在として

## 特開平 3-267054(2)

なる特許請求の範囲第1項記載の定位的脳手術支援装置。

- 5) 前記プローブとして、非磁性体且つ非導電体からなる素材で形成してなる特許請求の範囲第1項又は第4項記載の定位的脳手術支援装置。
- 6) 前記演算手段、記憶手段、表示手段及び入力手段を一体ユニット化して携帯可能としてなる特許請求の範囲第1項記載の定位的脳手術支援装置。
- 7) 前記3次元デジタイザ及び磁場ソースを手術台に内装してなる特許請求の範囲第1項記載の定位的脳手術支援装置。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、頭部の断層画像上に脳手術中の手術用プローブの先端の位置と方向をリアルタイムで図像表示し、病変部とプローブ先端の位置関係を随時しながら手術を行い得る定位的脳手術支援装置に関する。

(従来の技術)

近年、頭部のX線によるコンピュータ断層撮影

(CT)や核磁気共鳴映像(MRI)をはじめとする画像診断技術が直視脳神経外科手術に利用されつつある。先ず、従来のフレーム式定位脳手術装置をもとに、CTあるいはMRI撮影定位脳手術が実用化され、血腫吸引、脳腫生検に広く用いられている。

従来のフレーム式CT撮影定位脳手術は、頭部の周囲にフレームを固定するとともに、基準となるマーカーを設けたゲージ板を前フレームに固定した状態で複数の断層画像を撮影し、断層像上に変位されたマーカーを基準として、定規とコンパスによる幾何学的作図にて病変部及び穿刺針の進入点の座標決定を行い、それに基づき前フレームに手術用のアーチアダプターを取付けて手術を行っていたが、フレームを頭部に固定することは患者に大変な苦痛を与えるとともに、術野が制限される問題を有していた。

また、前述の如く病変部の位置座標を決定した後、脳手術用のプローブを固定した歩脚部のアームの各関節での回転角度を病変部の位置座標に対

3

応させて、プローブの先端を病変部に導く装置も存在するが、アームのため術野の遮蔽や手術操作に制限が加えられ、一般の開頭手術への応用には問題があった。

更に、プローブの頭内への進入により病変部以外の重要な脳構造物や脳室が破壊されることを防止しなければならないが、従来の装置においてはこのような配慮が欠け、医師の経験と勘に頼らざるを得なかった。

(発明が解決しようとする問題)

本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、従来の手術手技に何ら制限を加えることなく且つ頭部に苦痛を伴うフレームを固定することなく、脳手術用のプローブ先端の位置と方向を頭部の断層画像上にリアルタイムで図像表示して、手術中に開頭予定領域と病変部の位置関係、硬膜外から病変部、各断層、脳室の位置並びに方向確認、脳変より病変部へプローブの挿入、病変部切除範囲のモニターを行うことができる定位的脳手術支援装置を提供する点にある。

5

4

(問題を解決するための手段)

本発明は、前述の問題解決のために、頭皮に複数のマーカーを貼付した頭部の複数の断層画像を入力する画像撮取手段と、前記断層撮取手段の画像データを格納する記憶手段と、手術台に固定した患者の頭部に対して定位に固定し、相互に識別可能な複数の無誘導波電磁場を放射する磁場ソースと、脳手術用のプローブの近所に固定し、前記磁場ソースから放射された複数の電磁場を感知検知する磁場センサーと、前記磁場ソースに電磁場を発生させるソース信号を供給するとともに、前記磁場センサーで受信した信号を解析して、磁場ソースを基準とした磁場センサーの位置座標及び方向を算出する3次元デジタイザと、複数の断層画像を同時に表示する表示手段と、前記記憶手段の画像データを処理して複数の断層画像を前記表示手段に転送するとともに、断層画像上の前記マーカーの位置と前記プローブ先端の位置座標より脳手術用のプローブの位置と方向を断層画像上に対応づける関係を演算し、手術中のプローブ先端

6

## 特開平 3-267054(3)

の位置と方向を断層図像上に表示する信号を発生する演算手段と、前記演算手段に初期データ及び制御信号を入力する入力手段とよりなる定位的脳手術支援装置を構成した。

また、プローブの先端位置が表示手段に表示された複数の断層図像の何れにも対応しない場合に、対応する断層図像及びそれに連続する他の断層図像を表示手段に表示させるスクロール信号を前記演算手段より発生するようになした。

また、表示手段の同一画面に連続する5枚の断層図像を同時に表示して、プローブの先端位置に対応する脳構造物を立体的に把握できるようにした。

そして、前記磁場センサーをプローブに搭載自在とした。

また、プローブを非磁性体且つ非導電体からなる素材で形成した。

更に、演算手段、記憶手段、表示手段及び入力手段を一体ユニット化して携帯可能とし、また3次元デジタイザー及び磁場ソースを手術台に内装

7

により受信された信号を3次元デジタイザーにて解析し、前記磁場ソースを基準としたMS座標系における当該磁場センサーの位置座標とその方向を算出するのである。また、プローブの先端は磁場センサーに対して定点であるので、その位置関係の初期データを入力手段により演算手段に予め入力しておけば、3次元デジタイザーにて解析された結果に基づき、MS座標系における任意状態のプローブ先端の位置座標と方向が算出されるのである。

そして、表示手段に再現された複数のCT図像のなかで、特定のCT図像上にマウス等の入力手段にてカーソルを移動し、CT図像を基準としたCT座標系における原点、及び座標軸を設定する。この場合、CT図像面をxy平面とし、スライス方向をz軸として便宜上設定するのである。こうして、MS座標系とCT座標系が設定される。それから、CT座標系におけるマーカーの位置座標  $M_n(x_n, y_n, z_n)$  をCT図像上から読み取って入力手段にて演算手段に入力するとともに、プロー

9

した。

(作用)

以上の如き内容からなる本発明の定位的脳手術支援装置は以下の作用を有する。

先ず、患者の頭部に複数のマーカーを貼付した状態で、頭部の複数の断層図像(CT図像)をCTスキャナ(X線CTスキャナ、NMR(核磁気共鳴)-CTスキャナ及びポジトロンCTスキャナを含む)で撮影して用いる。そして、複数のCT図像を図像撮取手段にて読み取って図像データとして記憶手段に入力して格納する。この図像データは、演算手段により処理されて複数のCT図像を同時に表示手段に再現される。

次に、手術台に固定した患者の頭部に対して定位位置になるように固定した磁場ソースに、3次元デジタイザーよりソース信号が供給されて、磁場ソースから相互に識別可能な複数の磁場周波数磁場が放射される。この放射された磁場は、脳手術用のプローブの近所に固定された磁場センサーにより分別検知される。そして、磁場センサー

8

の先端を頭皮のマーカーに当ててMS座標系におけるマーカーの位置座標  $M_n(x_n, y_n, z_n)$  を3次元デジタイザーにて検出して演算手段に入力し、マーカーの位置座標  $M_n$  を介して、両座標系の対応関係を演算するのである。それにより、プローブ先端が任意状態にある場合にも、その実空間上(MS座標系)での位置をCT図像上に対応させることができるのである。また、同時にプローブの先端の方向をCT座標系におけるxy平面へ投影した場合の方向との関係を演算するのである。

こうして、プローブ先端の位置と方向が、CT図像上に対応づけられ、この位置と方向を表示手段に再現された断層図像上に図像表示され、手術中のプローブ先端の位置と方向をCT図像上で確認できるのである。

また、表示手段には同時に複数のCT図像を表示するが、プローブ先端の位置、特にCT座標系におけるx座標が表示された図像外になる場合に自動的に対応するCT図像が表示されるように、

10

## 特開平 3-267054(4)

プローブ先端の位置に応じて演算手段からスクロール信号を発生するようになっている。

更に、磁場ソースから放射された電磁場を磁場センサーにて受信して、プローブの先端の位置座標と方向を検出するものであるから、磁場ソースから放射された電磁場を乱さないように、プローブを非磁性体且つ非導電体で形成している。

そして、一時的にCT画像を撮影する場所と手術室は随れているため、演算手段、記憶手段、表示手段及び入力手段を一体ユニット化して携帯可能とするとともに、3次元デジタイザ及び磁場ソースは手術台に内蔵して、使用の便宜を図っているのである。

## 〔実施例〕

次に添付図面に示した実施例に基づき更に本発明の詳細を説明する。

第1図はCTスキャナ1にてテーブル2に横たわった患者の頭部3の断面画像(CT画像G<sub>1</sub>)を撮影する状態を示したもので、テーブル2の移動方向をs軸に設定し、s軸と直交する面(CT

11

はフローチャートを示し、図面を参照しながら本発明を説明する。先ず、前述の如く得られた複数のCT画像G<sub>1</sub>を用意し、該CT画像G<sub>1</sub>を固体撮像素子(CCD)カメラ等の画像検取手段4により1枚ずつ撮影し、その画像データをマイクロプロセッサ等の演算手段5に接続された記憶手段6に読み込んで記憶させる。尚、前記画像検取手段4はCCDカメラに限ることはなく、イメージスキャナで読み取ることも、またCTスキャナ1の画像データをフロッピーディスクに記憶させ、該フロッピーディスクから前記記憶手段6に読み込むことも可能である。また、実際的には、前記演算手段5と記憶手段6はラップトップ型のパーソナルコンピュータで置き換えることができ、記憶手段6は内蔵の固定ディスクやフロッピーディスクとするのである。そして、前記画像検取手段4により記憶手段6に読み込む際にモニター手段7で適宜監視することも可能である。

前記各画像検取手段4によれば、CTスキャナ1の仕様が異なっても読み取れて便利であるが、

13

画像面)をxy平面に設定している。尚、前記CTスキャナ1は、X線CTスキャナ、NMR-CTスキャナ及びポジトロンCTスキャナ等を含むものとする。ここで、CT画像を撮影するのに先立ち、前記頭部3には第4図に示す如く複数のマーカーM<sub>n</sub>を貼付し、CT画像上に同時に現れるようにしている。該マーカーM<sub>n</sub>(nは1, 2, ...)は、径2mm、長さ5mmのポリエチレンチューブに造影剤を封入し、2本を十字に組み合わせたもので、本実施例では4ヶ所に貼付している。尚、前記CTスキャナ1により撮影されるCT画像G<sub>1</sub>の空間分解能には解像度の限界があり、それにより得られるCT画像G<sub>1</sub>は一定の厚みを有する。即ち、空間分解能と同一化した厚さd<sub>1</sub>を有するスライス部分の画像が重ねた断面画像が得られる。通常該厚さd<sub>1</sub>は2~5mmであり、この厚さd<sub>1</sub>は適宜設定可能である。また、一度のCTスキャナ1の走査により例えば24枚といった複数のCT画像G<sub>1</sub>が得られる。

第2図は、本発明のブロック図を示し、第7図

12

CTスキャナ1に直結して直読画像データを伝送することにより、時間の短縮化が図られ、読み取りエラーをなくすることが可能であり、より実用的である。

そして、演算手段5により画像データを処理して連続する6枚のCT画像G<sub>1</sub>を第3図に示す如く一度に表示手段8に再現して表示する。尚、該表示手段8はパーソナルコンピュータに標準装備のものを用いることができ、ブラウン管式のCRTディスプレイや液晶ディスプレイからなる。また、前記演算手段5には入力手段9としてキーボードやマウスが接続され、初期データ及び制御信号を入力するのである。

また、合成樹脂板で作製された脳手術用の鋭角三角形あるいは吸引管型のボンタイマー又は穿刺針等のプローブ10の先端の位置と方向を計測するための3次元座標測定装置は、マイクロプロセッサを内蔵した3次元デジタイザ11と交流電磁場を放射する磁場ソース12及び前記プローブ10の近所に固定した磁場センサー13とより構成される。

14

## 特開平 3-267054(5)

そして、前記磁場ソース12に3次元デジタイザ-11よりソース信号が供給されて、該磁場ソース12から相互に識別可能な複数の短絡周波電磁場が放射され、この電磁場を前記磁場センサー13によって分岐検知し、受信されたこの信号を3次元デジタイザ-11にて解析し、磁場ソース12を基準としたM S座標系における磁場センサー13の位置座標とその方向を算出するのである。ここで、前記プローブ10は電磁場を乱さないように非磁性体且つ非導電体の合成樹脂製としたが、電磁場の乱れが許容し得る範囲であれば、導電体ではあるが非磁性体のステンレス鋼で作製することも可能である。また、磁場センサー13をプローブ10に付属自在に固定できる構造とした場合には、各組のプローブ10に磁場センサー13を付け替えることができて便利である。

更に詳しくは、前記磁場ソース12と磁場センサー13はそれぞれ3組の直交するコイルからなり、磁場ソース12の1個のコイルを励磁すると磁場センサー13の3個のコイルに磁場ソース12からの磁

場と磁場センサー13の配向に応じた誘導電圧が発生し、この電圧又は電流信号を3次元デジタイザ-11にて解析し、磁場ソース12の中心を原点OとするM S座標系(O;X,Y,Z)における磁場センサー13の位置座標P(a,b,c)及び方向角(A,B,R)の6つのパラメーターが算出されるのである。ここで、A,B,Rは、オイラー角でそれぞれ方位角(azimuth)、上昇角(elevation)、ロール角(roll)を示している。そして、前記磁場ソース12の3個のコイルから電磁場を順次放射して、例えば1秒間に30回の繰り返しで位置と方向角を校正しながら測定するのである。これにより、磁場センサー13の位置と方向がリアルタイムで計算される。

そして、前記3次元デジタイザ-11にて測定された磁場センサー13の位置座標及び方向角を前記演算手段5に入力し、そのデータに基づき予め形状、寸法等の初期データが入力されたプローブ10の先端の位置座標Q(X,Y,Z)とプローブ10の方向角を算出するのである。

例えば、磁場センサー13の中心Pを原点とする

15

磁場センサー座標系(P;U,V,W)におけるプローブ10の先端の座標を( $\alpha, \beta, \gamma$ )とすれば、M S座標系でのプローブ10の先端の位置座標Qは、

$$+ (\alpha, \beta, \gamma) T_1, T_2, T_3 \quad (1)$$

と表される。ここで、

$$T_1 = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & \cos R & \sin R \\ 0 & -\sin R & \cos R \end{bmatrix}$$

$$T_2 = \begin{bmatrix} \cos B & 0 & -\sin B \\ 0 & 1 & 0 \\ \sin B & 0 & \cos B \end{bmatrix}$$

$$T_3 = \begin{bmatrix} \cos A & \sin A & 0 \\ -\sin A & \cos A & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

である。

即ち、式(1)はM S座標系における磁場センサー13の位置座標P(a,b,c)とプローブ10の先端の位置座標Q(X,Y,Z)との関係式Fを表し、式中の( $\alpha, \beta, \gamma$ )の値はプローブ10の形状、寸法等に

応じて初期データとして入力されている。従って、3次元デジタイザ-11により6つのパラメーターa,b,c,A,B,Rが測定されれば、関係式Fによってプローブ10の先端の位置座標Q(X,Y,Z)が算出できるのである。

また、磁場センサー13の方向角を用いてプローブ10の方向を算出するには、磁場センサー13のP点での方向角を直接プローブ10の先端方向の方向角に変換し、更にC T座標系における方向角に変換することもできるが、本実施例では関係式Fを利用して算出した。即ち、磁場センサー座標系(P;U,V,W)におけるプローブ10の先端上の任意の2点を設定する。1点は前記Q( $\alpha, \beta, \gamma$ )であり、他の1点はプローブ10の軸線上の任意の点N( $\xi, \eta, \zeta$ )とし、それぞれ前述の関係式FでM S座標系における座標Q(X,Y,Z)及びN(X<sub>0</sub>, Y<sub>0</sub>, Z<sub>0</sub>)を算出する。そして、この2点を結ぶベクトルNQがプローブ10の方向となる。ここで、N( $\xi, \eta, \zeta$ )もプローブ10の形状と磁場センサー13の取付状態にのみ関係し、初期データとして

18

17

## 特開平 3-267054(6)

入力されている。

次に、MS座標系におけるプローブ10の先端の位置座標 $Q(X, Y, Z)$ をCT座標系における位置座標 $Q(x, y, z)$ へ変換する変換行列 $T$ を求める。ここで、MS座標系の座標値は大文字を用い、CT座標系の座標値は小文字を用いて表している。

手順に先立ち、前記表示手段8に表示されたCT画像 $G_c$ の何れかを基準の $xy$ 平面に設定する。通常はCTスキャナ1のテーブル2の位置が0となるCT画像 $G_c$ を $xy$ 平面に選び、マウス等でカーソルを移動させて該CT画像 $G_c$ の時中心部に原点 $R$ を設定する。 $z$ 軸はテーブル2の移動方向と一致する。こうして、CT座標系 $(R; x, y, z)$ が設定される。尚、各CT画像 $G_c$ は深さ $d_c$ の情報で重畳されたものであり、深さ $d_c$ とその $z$ 座標値は別個に設定されるべきものであるが、説明を簡単にするために本実施例では隣接するCT画像 $G_c$ と $G_{c+1}$ の情報は重ならなく且つ連続しているとモデル化する(第5図参照)。そうすると、各CT画像 $G_c$ の深さ $d_c$ の中心の $z$ 座標値

19

操作してカーソルを移動させて読み取るのである。次に、手術室において前述の如く手術台に固定した頭部3に貼付したマーカー $M_n(n=1, 2, 3, 4)$ にプローブ10の先端を当てることにより、MS座標系における各マーカー $M_n(X_n, Y_n, Z_n)$ が3次元デジタイザ11により測定されて前記同様に演算手段5に入力される。

そして、MS座標系の座標値 $(X, Y, Z)$ からCT座標系の座標値 $(x, y, z)$ に、

$$(x, y, z, 1) = (X, Y, Z, 1) T \quad (2)$$

と変換されるとき、 $M_n(x_n, y_n, z_n)$ と $M_n(X_n, Y_n, Z_n)$ を用いれば、

$$T = \begin{bmatrix} X_1 & Y_1 & Z_1 & 1 \\ X_2 & Y_2 & Z_2 & 1 \\ X_3 & Y_3 & Z_3 & 1 \\ X_4 & Y_4 & Z_4 & 1 \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} x_1 & y_1 & z_1 & 1 \\ x_2 & y_2 & z_2 & 1 \\ x_3 & y_3 & z_3 & 1 \\ x_4 & y_4 & z_4 & 1 \end{bmatrix} \quad (3)$$

と表され、各座標値から容易に算出することができる。この変換行列 $T$ を用いれば、MS座標系において任意状態にあるプローブ10の先端の位置

はディスクリートな $x_c$ となり、 $x_c$ と $d_c$ は、

$$x_c = x_{c-1} + (d_{c-1} + d_c) / 2 \quad (4)$$

と関係づけられ、初期データとして $x_c = 0$ と各CT画像 $G_c$ の深さ $d_c$ が入力されると、 $z$ 座標値は算出される。勿論、テーブル2の移動距離を頭部データと同時に読み取って $z$ 座標値として入力することも可能である。

第4図に示す如く、患者の頭部3はマイフィールド3点固定器14にて図示しない手術台に固定し、当該3点固定器14には前記磁ビソース12を合成樹脂製で作製した取付具15を介して固定し、磁場ビソース12を頭部3に対して定位区になるようにしている。

MS座標系からCT座標系への変換行列 $T$ を求めるには、先ず前記表示手段8に再現されたCT画像 $G_c$ 上に表示されたCT座標系における対応する各マーカー $M_n(x_n, y_n, z_n)$ の座標値を読み取り演算手段5に入力する。これには、CT画像 $G_c$ 上においてマーカー $M_n$ の位置にマウス等を

20

座標 $Q(X, Y, Z)$ をCT座標系における $Q(x, y, z)$ に変換できるのである。

また、MS座標系におけるプローブ10の方向を表すベクトル $\overrightarrow{NQ}$ をCT座標系へ変換するには、 $Q(X, Y, Z)$ と $N(x_0, y_0, z_0)$ をそれぞれ前記変換行列 $T$ にて $Q(x, y, z)$ と $N(x_0, y_0, z_0)$ に変換することにより、 $\overrightarrow{NQ}$ が得られる。この $\overrightarrow{NQ}$ をCT座標系における基本ベクトル $\overrightarrow{T}$ 、 $\overrightarrow{J}$ 、 $\overrightarrow{K}$ を用いて表せば、

$$\overrightarrow{NQ} = (x - x_0) \overrightarrow{T} + (y - y_0) \overrightarrow{J} + (z - z_0) \overrightarrow{K}$$

となり、このベクトルの $xy$ 平面へ投影したベクトル $\overrightarrow{Q_1}$ は、

$$\overrightarrow{Q_1} = (x - x_0) \overrightarrow{T} + (y - y_0) \overrightarrow{J}$$

と表される。そして、 $\overrightarrow{Q_1}$ が $x$ 軸となす角 $\theta$ は、 $\theta = \cos^{-1}((x - x_0) / ((x - x_0)^2 + (y - y_0)^2)^{1/2})$  (4)と表される。

従って、前記プローブ10の方向を $\theta$ を用いてCT画像 $G_c$ 上に表示することが可能となる。即ち、前述の如くCT座標系でのプローブ10の先端の位置座標 $Q(x, y, z)$ と $x$ 軸となす角 $\theta$ が求められ

21

22

## 特開平 3-267054(7)

れば、第3図例に示す如くCT面像G<sub>i</sub>上にQ(x, y, z)を+で表示するとともに、該+を屈点又は終点とし且つx軸とのなす角θを有する方向を—で表示するのである。こうして、実空間(MS座標系)におけるプローブ10の先端の位置と方向がCT面像G<sub>i</sub>上に位置表示されるのである。即ち、第4図に示す如くs<sub>i</sub>とCT面像G<sub>i</sub>とは一対一に対応するので、任意状態のプローブ10の先端のCT座標系における座標値がs<sub>i</sub>±d<sub>i</sub>/2の範囲内にあれば、CT面像G<sub>i</sub>を選択して表示するのである。

また、プローブ10の先端が表示手段8に表示された何れのCT面像G<sub>i</sub>に対応しなくなったとき、プローブ10のCT座標系における座標値(s<sub>i</sub>)と対応するCT面像G<sub>i</sub>を表示手段8に表示させるスクロール信号を演算手段5に出力させるようにしている。

そして、実際の手術中のプローブ10のQ(x, y, z)とθを順次記憶させておくことにより、手術後においてそのデータに基づき表示手段8に表示す

23

た。

第二に乾燥頭蓋標本を用いて模擬実験を行った。乾燥頭蓋標本の内部に合成樹脂製の仮想ターゲットを置き、表面にマーカーを装着してCT断面画像を撮影した。このCT面像G<sub>i</sub>を用いて、前述の如くマーカーを測定して、MS座標系とCT座標系を関係づけ、それから仮想ターゲットをプローブ10の先端でポイントし、CT面像G<sub>i</sub>上の仮想ターゲットと、プローブ10の先端を表す位置とのズレを測定した。

その結果、3次元ファントムの格子点による校定では、読み取られた座標の誤差の標準偏差は1.7mm(サンプル数255点)であった。また、プローブ10の先端を固定してその方向を変化させると誤差はやや大きくなり、三角プローブでは3.1mm(サンプル数86点)、吸引管型プローブでは4.0mm(サンプル数1066点)であった。これは、磁場センサー13の方向角度誤差に起因するといえる。次に、磁場ソース12と磁場センサー13の間に金属片を挿入したとき、最も測定に影響した

25

ることにより、臨時的な手術の過程を再現することが可能となり、手術後にその手術手法の検討を行うことができるとともに、教育用にも使用できるのである。

最後に、本発明の定位的配手術文脈装置の位置精度について若干言及する。位置精度を校定するため、第一にアクリル板で水平板と磁場ソース12を固定するために立てられた垂直板よりなる3次元ファントムを作成した。前記水平板には1mm間隔で格子を描き、各格子点をプローブ10の先端でポイントし、3次元デジタルタイダー11から出力される位置並びに方向角度データの妥当性を検討した。次に、プローブ10の先端位置を格子点に当てたまま方向を変えて、算出されたプローブ10の先端位置の変化も検討した。この3次元座標測定装置は交流磁場を利用しているため導磁性の高い金属には磁場歪が発生し、そして誘導磁場が生じ、誤差の原因となり得る。この点を検討するために種々の金属片や手術器具を固定された磁場ソース12、磁場センサー13間に近づけ、生じた妨害を評価し

24

のは鉄で、ついでアルミニウム、真鍮、ジュラルミン、ステンレス鋼の順序であった。鉄では、測定値が数mmもずれ、測定誤差を許容値以内にとめるには磁場ソース12から少なくとも30mm隔す必要があることが判明した。しかし、手術器具のうち大きな影響を示したのは顔面板(ステンレス鋼)のみで、双極磁場源子、吸引管、グリーンバーグのリトラクター等は磁場センサー13に1~2cmまで接近しなければ影響しなかった。即ち、通常の手術手技では位置測定に対して大きな影響はないと考えられる。また、乾燥頭蓋標本を用いた模擬実験では、誤差はCT面像G<sub>i</sub>上で最大4mmであった。

また、精度を更に向上させるには、メイフィールド3点固定器14を強化合成樹脂やチタン合金に置き換えたり、頭蓋と顔面のずれに起因するマーカーM<sub>n</sub>の位置測定誤差を少なくするために、頭蓋に固定するネジ式マーカー等を使うことが考えられる。しかし、マーカーM<sub>n</sub>の位置座標をCT面像G<sub>i</sub>上から読み取る際に、スライス間補正を

26

## 特開平 3-267054(8)

しても2mm程度の誤差が生じるものと思われ、本発明ではその精度に限界がある。一方、指示精度が5mm程度であれば十分臨床に耐え得るとの報告があるとともに、本発明を用いた手術症例でも本発明の有効性は実証されている。

尚、本実施例では頭部の横断面のCT画像G<sub>1</sub>を用いた例を示したが、サジタル面(矢状面)やコロナル面(冠状面)の断面画像を用いることも可能である。

## (発明の効果)

以上にしてなる本発明の定位的頭手術支援装置によれば、頭皮に複数のマーカーを貼付した頭部の複数の断面画像を入力する画像読取手段と、前記画像読取手段の画像データを格納する記憶手段と、手術台に固定した患者の頭部に対して定位に固定し、相互に識別可能な複数の線磁石及び磁場を放射する磁場ソースと、頭手術用のプローブの先端に固定し、前記磁場ソースから放射された複数の磁場を分離検知する磁場センサーと、前記磁場ソースに電磁場を発生させるソース信号

を供給するとともに、前記磁場センサーで受信した信号を解析して、磁場ソースを基とした磁場センサーの位置座標及び方向を算出する3次元デジタイザーと、複数の断面画像を同時に表示する表示手段と、前記記憶手段の画像データを処理して複数の断面画像を前記表示手段に再現するとともに、断面画像上の前記マーカーの位置と前記プローブ先端の位置座標より該プローブ先端の位置と方向を断面画像上に対応づける関係演算し、手術中のプローブ先端の位置と方向を断面画像上に表示する信号を発生する演算手段と、前記演算手段に初期データ及び制御信号を入力する入力手段とよりなるので、手術中において頭手術用のプローブ先端の位置と方向を頭部の断面画像上にリアルタイムで表示することができ、手術中に頭部予定箇所と病変部の位置関係を、硬膜外から病変部、各断面、脳室の位置並びに方向確認、脳変より病変部へプローブの挿入、病変部切除範囲のモニターを行うことができ、認知記憶を考慮した安全性の高い手術が可能となるとともに、従来

27

28

の手術手技に何ら制限を加えることなく、更に頭部にフレームを固定することがないので、患者の苦痛を軽減することができる。

また、表示手段には同時に複数のCT画像を表示するが、プローブ先端の位置、特にCT座標系における座標が表示された箇所外になる場合に演算手段からスクロール信号を発生させて、自動的に対応するCT画像が表示されるので、手術中の操作が簡単である。

更に、プローブを非磁性体且つ非導電体で形成した場合、磁場ソースから放射された電磁場を乱すことがなく、プローブの先端の位置座標と方向を精度よく測定できるのである。

また、演算手段、記憶手段、表示手段及び入力手段を一体ユニット化して携帯可能とするとともに、3次元デジタイザー及び磁場ソースは手術台に内蔵したので、CT画像を撮影する場所と手術室が離れていても使用の便利である。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図はCTスキャナで頭部の断面画像を撮影

する様子を示した説明用斜視図、第2図は本発明の簡略ブロック図、第3図は表示装置上に表示したCT画像の簡略平面図、第4図は頭部と磁場ソース及び磁場センサーを固定したプローブの位置関係を示す頭部の簡略斜視図、第5図はCT画像G<sub>1</sub>と深さd<sub>1</sub>及び座標値s<sub>1</sub>との関係を示す説明図、第6図はMS座標系とCT座標系の関係を示す説明図、第7図は本発明のフローチャートである。

G<sub>1</sub>: CT画像、M<sub>n</sub>: マーカー、d<sub>1</sub>: 深さ、s<sub>1</sub>: 座標値、1: CTスキャナ、2: テーブル、3: 頭部、4: 画像読取手段、5: 演算手段、6: 記憶手段、7: モニター手段、8: 表示手段、9: 入力手段、10: プローブ、11: 3次元デジタイザー、12: 磁場ソース、13: 磁場センサー、14: ノイズフィールド3点固定器、15: 取付具。

特許出願人 加 藤 天 典

特許出願人 吉 峰 俊 樹

特許出願人 早 川 徹

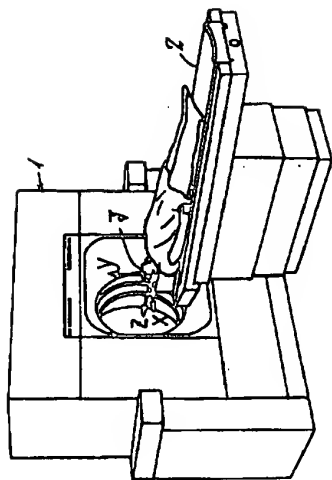
29

30

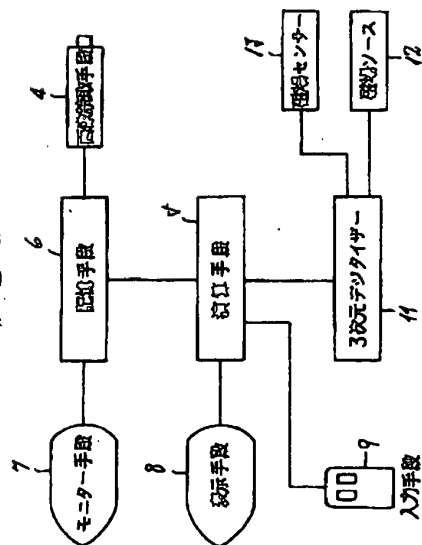


特開平 3-267054(9)

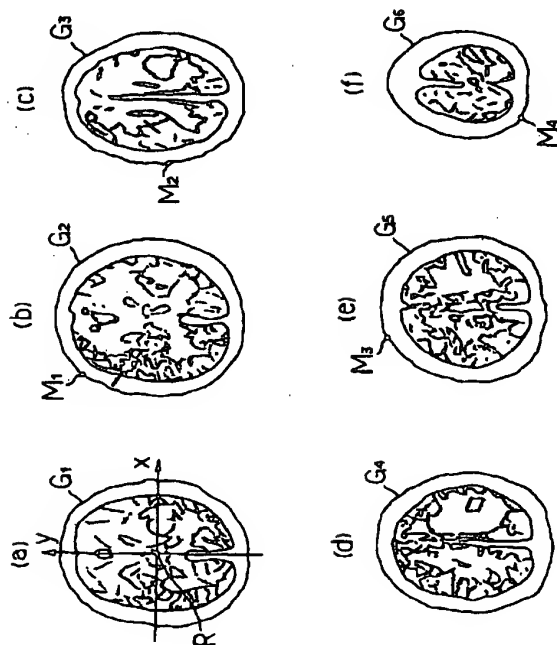
第 1 図



第 2 図



第 3 図



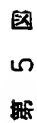
特圖平 3-267054(10)







圖 5

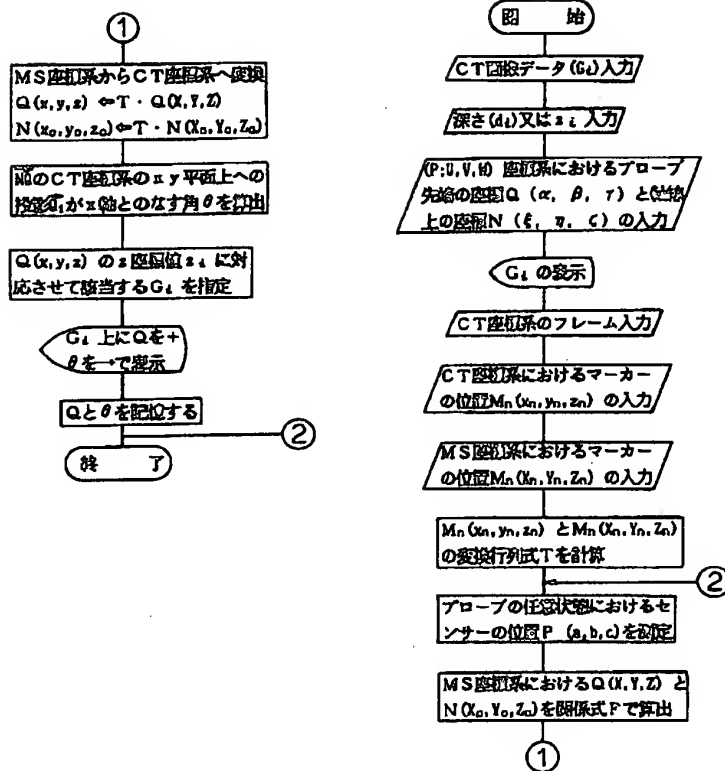


四六集



特開平 3-267054(11)

図 7



6/5/1 (Item 1 from file: 347)  
DIALOG(R)File 347:JAPIO  
(c) 2001 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

03604154 \*\*Image available\*\*  
STATIONARY LOBOTOMY AID

PUB. NO.: 03-267054 JP 3267054 A]  
PUBLISHED: November 27, 1991 (19911127)  
INVENTOR(s): KATOU AMAYOSHI  
YOSHIMINE TOSHIKI  
HAYAKAWA TORU  
APPLICANT(s): KATOU AMAYOSHI [000000] (An Individual), JP (Japan)  
YOSHIMINE TOSHIKI [000000] (An Individual), JP (Japan)  
HAYAKAWA TORU [000000] (An Individual), JP (Japan)  
APPL. NO.: 02-067928 [JP 9067928]  
FILED: March 16, 1990 (19900316)  
INTL CLASS: [5] A61B-019/00  
JAPIO CLASS: 28.2 (SANITATION -- Medical)  
JAPIO KEYWORD: R098 (ELECTRONIC MATERIALS -- Charge Transfer Elements, CCD &  
BBD); R115 (X-RAY APPLICATIONS); R131 (INFORMATION PROCESSING  
-- Microcomputers & Microprocessors)  
JOURNAL: Section: C, Section No. 914, Vol. 16, No. 76, Pg. 40,  
February 25, 1992 (19920225)

ABSTRACT

PURPOSE: To display a position and direction in superimposition by providing a means which processes an image data of a memory means to reproduce a plurality of tomographic images on a display means while computing a relation in which the position and the direction of the tip of a probe are made to correspond on the tomographic images from coordinates of a position of a marker and a position of the tip of a probe on the tomographic images.

CONSTITUTION: A position and a direction of the tip of a probe 10 are made to correspond on a CT image and the position and direction are displayed in superimposition on a tomographic image of a heat reproduced on a display means 7. With such an arrangement, the position and direction the tip of the probe 10 during an operation can be checked on the CT image. A plurality of CT images are shown on the display means 7 simultaneously. But a scroll signal is generated from an arithmetic means 5 according to the position of the tip of the probe 10 so that a corresponding CT image is displayed automatically, specially when Z coordinates in a CT coordinates system is outside a range displayed.